

ノウフク・アワード2023応募用紙(記入例)

1. 応募者の概要(必須)	
名称	(ふりがな) NPO ほうじん のうふくしゃかいふくしきょうぎかい NPO 法人ノウフク社会福祉協議会
所在地 (市町村名まで)	〇〇県△△市
取組主体	<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 農林水産業経営体 <input type="checkbox"/> 農林水産業関係団体 <input type="checkbox"/> 一般社団法人 <input type="checkbox"/> 社会福祉法人 <input checked="" type="checkbox"/> NPO 法人 <input type="checkbox"/> 特例子会社 <input type="checkbox"/> 地方自治体 <input type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> その他()
設立年月日	(西暦) 2014年4月 (設立 10 年目)
農福連携開始年月日	(西暦) 2016年9月 (開始7年目)
取り組んでいる事業	<input type="checkbox"/> 農業 <input type="checkbox"/> 林業 <input type="checkbox"/> 水産業 <input type="checkbox"/> 加工業 <input type="checkbox"/> 就労継続支援 A 型 <input type="checkbox"/> 就労継続支援 B 型 <input type="checkbox"/> 就労移行支援 <input type="checkbox"/> 生活介護 <input type="checkbox"/> 放課後等デイサービス <input type="checkbox"/> 高齢者介護 <input checked="" type="checkbox"/> 中間支援 <input type="checkbox"/> その他()
農福連携の体系図	
認定・取得済みの認証等	<input type="checkbox"/> 認定農業者(認定新規就農者を含む) <input type="checkbox"/> 6次産業化認定事業者 <input type="checkbox"/> ノウフク JAS <input type="checkbox"/> 有機 JAS <input type="checkbox"/> GGAP <input type="checkbox"/> JGAP <input type="checkbox"/> その他の GAP <input type="checkbox"/> その他()

2. 活動のきっかけ(必須) ※200 文字程度で記入してください。
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 県内の就労継続支援 B 型事業所の工賃が全国平均より低く、県内の景気が低迷する中で、B 型事業所への下請け業務が減少し、障害者の就労が不安定であった。 ◆ 一方、高齢化等に伴う経営規模縮小など、地域農業を維持するための労働力の不足が課題となっていた。 ◆ こうした中で、県から福祉サービス事業所と農業経営体の間に入り、マッチングを行ってもらえないかと打診されたことがきっかけで 2016 年からマッチング事業を開始した。

3. 取組の具体的内容及び成果(効果)(必須)
※審査基準である①人を耕す、②地域を耕す、③未来を耕すについて、活動内容、時期及びその成果(効果)をそれぞれ 400 字程度で記入してください。(審査基準 URL:)
① 人を耕す(工賃や賃金の向上に対する取組、障害者等が管理者や責任者などにステップアップしている事例、一般就労につながった事例、農作業中等の安全管理や健康管理の取組、多様な人々が働くことができる職場環境の創出に関する取組等について記載してください)
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 作業単価は、関係者間で協議して作業内容ごとに基準単価を決め、作業単価表を作成して見える化を図っているほか、作業単価は県の最低賃金以上になるように指導している。 ◆ 障害者の能力や適性に応じた作業が行われるよう、双方から話を聞くとともに、障害者がスキルアップするように作業の見直しが定期的に行われるよう指導している。 ◆ 農業経営体には、トイレや休憩所の整備等を行うよう促し、農作業中の安全管理について当法人でマニュアルを作成し、双方に渡すことで、事故やトラブルの防止を図っている。 ◆ 作業内容が評価され、農業経営体に雇用された障害者がこれまで2名いる。 ◆ 農業経営体や農業関連団体の障害者に対する理解が深まり、お互いが寄り添い、助け合おうといった雰囲気地域に芽生えてきており、新たに2団体が農福連携の取組を開始した。

◆ 障害者だけでなく、ひきこもりや触法者の受け入れが検討され始めており、農業を通じて多様な人が活躍できる環境ができつつある。
② 地域を耕す(農福連携を通じた収益性・生産性の向上、地域の伝統野菜や伝統技術の継承、荒廃農地や遊休農地等の解消、地域の祭りやイベントへの参加、直売所やレストラン・カフェの開設、農作業体験や収穫体験などの開催、地域内の異業種との連携等について記載してください)
◆ 障害者は高齢化が進む地域にとって不可欠な労働力となっており、農業経営体の中には労働力が確保できたことにより、生産性向上や収益向上につながり、規模拡大や新たな農作物の生産に取り組む団体も出てきている。
◆ 福祉サービス事業所に農作業を委託する農業経営体は取組開始から4倍以上増え、委託面積も 12 倍に増加した。
◆ 農作業に障害者が携わることで、地域における障害者に対する理解が深まったことで、産直祭りや収穫祭などのイベントにも福祉サービス事業所が参加するようになるなど、地域内で交流が盛んになっている。
◆ 県内の特別支援学校に農業体験などを受入れられる農業経営体を紹介するなど、マッチング以外にも地域の連携が進む取組を推進している。
◆ マッチングがきっかけで、農業経営体、JA、福祉サービス事業所、特別支援学校などからなる協議会を発足し、農福連携の推進に取り組んでいる。
③ 未来を耕す(先進性・独自性・話題性のある取組、これから農福連携に取り組む団体等の参考となる取組、地域外の異業種との連携、ノウハウ商品の付加価値向上に関する取組、障害者等の目線で農作業の内容を見直すことで作業の効率化につながった事例等について記載してください)
◆ 農福連携の取組が、テレビや新聞で取り上げられることが多くなり、県内はもちろんのこと県外からの行政関係者や JA 等の視察が増えるとともに、県や市町村主催の農福連携セミナーに講師として招かれる機会も増加している。
◆ 農福連携を始めたいと考えている地域外の団体からもアドバイスを求められる機会が増え、地域外にも農福連携の取組が広がっている。
◆ 農作業を福祉サービス事業所に委託し、労働力不足が解消したことで、農地面積の拡大や高収益作物に転換した農業経営体や、ノウハウ JAS や GAP 認証を取得した農業経営体も現れている。

4. 活動実績(必須) ※「項目」は、農地面積、荒廃農地の解消、売上高、障害者等の工賃や賃金、農作業に関わる障害者数、交流人口等、取組実績がわかるものについて、項目ごとに取組当初時と直近5年間の推移を表形式で記入してください。								
項目	単位	取組当初	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 (見込み)
障害者数	人	10	25	30	40	40	45	45
特記事項(任意): 農作業に加わる障害者数は取組当初から 4.5 倍に増加								
参加福祉事業所		2	4	5	7	7	9	9
特記事項(任意): 参加福祉事業所数は取組当初から 4.5 倍に増加								
参加農業経営体		3	5	8	10	10	12	12
特記事項(任意): 参加農業経営体数は取組当初から 4 倍に増加								
作業請負面積	a	60	150	250	400	400	700	700
特記事項(任意): 作業請負面積は取組当初から約 12 倍に増加								

※COVID-19 を原因として減少または減少となる見込みである場合は、実績値に「※」を記入してください。また、COVID-19 関連で実績に影響がある場合は、「3. 取組の具体的内容及び成果(効果)」に影響を踏まえた対応や工夫を記入してください。

5. 活動の主な変遷(必須) ※活動の主な変遷について記入してください。

取組当初	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 (見込み)
地域で協議し、当法人が中間支援団体となってマッチング開始	作業単価表を整備し、福祉サイド、農業サイド双方に見える化を実施	取組開始時から取組件数は大幅に増加	福祉事業所が産直祭りや収穫祭などのイベントに参加	農福連携に取り組んだことを機に農業経営体がノウフク JAS とJGAP を取得	一部の農業経営体で県内の特別支援学校等から農業体験等の受け入れを開始	引き続き、農福連携に取り組む農業経営体や福祉事業所の拡大を図る

6. 今後の展開方向(必須) ※200字程度で箇条書きにて記入してください。

- ◆ 農福連携の取組は、徐々に広がってきているものの、周年作業の確保のため、更に取り組主体を増やすとともに県内全域に拡大していくことが重要であり、県や JA など関係機関との連携を密にしながら取組の拡大を図る。
- ◆ 農福連携で生産された農産物を販売する直売所を新設し、農福連携の普及啓発を図る予定である。
- ◆ 農福連携の取組について、県内だけでなく、県外の流通業者や外食企業にも PR し、販路の拡大を図ると共に、ノウフク JAS やGAPの取得を推進する。

7. 取組内容がわかる写真等(必須)

※写真、図表等を貼付し、20文字程度で説明を記入してください。取組内容を代表する写真を必ず3枚以上貼付してください。

※第三者の肖像権、著作権、プライバシー等を侵害することのないように十分注意してください。

※写真等を貼り付ける際は圧縮するなどして、Wordのファイルサイズが5MB以下となるようにしてください。

8. 表彰等の受賞歴(該当があれば記入)	
表彰名等(受賞年度)	主催者

9. 活動に関するPR・エピソード(自由記入、写真、PR動画 ^④ 等添付可)(任意)
※600字程度で記入してください。

- ① 記入欄には指定された文字数の範囲内で記入してください(文字の大きさも、当初の設定から変更しないでください)。
- ② ノウフク・アワードは、農福連携の普及啓発を目的に、表彰された取組内容はもちろんのこと、優良な取組事例を全国へ発信することとしており、応募用紙に記載・掲載いただいた内容及び写真については、農林水産省が行う広報活動及びノウフクポータルサイト(ノウフクWEB)への掲載並びに地方公共団体への情報提供等(農林水産省ホームページへの掲載、選定事例集への掲載、政府施策紹介資料への掲載など)に使用することがございますので、あらかじめご了承ください。(個人名については公表、使用はいたしません。)
- ③ 提出いただいた応募用紙等については返却いたしませんので、あらかじめご了承ください。

- ④ 「9. 取組に関する PR・エピソード」に PR 動画を添付する場合は、動画共有サイト(YouTube / Vimeo 等)やクラウドストレージサービス(OneDrive / iCloud / Dropbox / Google ドライブ)等にアップロードの上、URL を記入してください。